

## CaseStudy Point

- ▶ スマートデバイスの「資産管理」を実現
- ▶▶ 全国8拠点のデバイスを効率的に2人で管理

「弊社は特にアプリの制限などはしていません。「縛らない」ことが社員のクリエイティブ性を高められると考えていますので、社員の利便性を損ねる可能性があるデバイス機能制限やアプリの制御は行っていません。その代わりに社内規程でスマートデバイスの利用に関するルールと個人の責任範囲を明確に記載して、社内周知を図っています。」と西脇氏は語る。

「使えなくする、使わせない」ことが、管理のゴールではない。社員が安心して業務に活用できることが、目指すべき「管理」の形であるはずだ。

だからこそ、管理者である西脇氏や綿引氏は、LanScope Anと社内規程での管理を組み合わせ、社員のパフォーマンスを落とすことなく、スマートデバイスのセキュリティ担保を実現している。

「技術のウエディングパーク」と呼び声が高い同社。商品サイトの構築やシステム開発までをこなすメディア開発本部だからこそ、ユーザー視点にたったスマートデバイスの管理を実現できるのだろう。

これからもLanScope Anは同社の「資産管理」を手助けてしていく。



○スマートデバイス管理を担う管理者 お二人



○ウエディングパーク様のオフィス風景

## 「資産管理ができるMDMがほしかった」 ブライダル業界のITリーディングカンパニーがLanScope Anを導入



### エムオーテックス株式会社

【大阪本社】〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-12-12 エムオーテックス新大阪ビル

【東京本部】〒108-0075 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス5階

【名古屋支店】〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティビル3階

【九州営業所】〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-15-20 NOF博多駅前ビル2階

本事例内容についてのお問合せ **0120-968995** 受付時間 9:00-18:00(月~金曜日)

お問合せ先:

### ♥ Wedding Park 株式会社ウエディングパーク

<http://www.weddingpark.co.jp/>

■ 設立：1999(平成11)年9月 ■ 導入機種：iPhone, iPad, Android

株式会社ウエディングパークは、ブライダル業界のインターネットリーディングカンパニーだ。2004年に株式会社サイバーエージェントのグループになった同社は、「21世紀を代表するブライダル会社を創る」をビジョンに掲げ、結婚準備中のカップルに役立つ情報を発信し続けている。

全国約4,500件以上の結婚式場のデータベースと検索機能を備えた、国内最大級のクチコミ掲載数を誇る、式場探しの決め手が見つかるクチコミサイト「ウエディングパーク」は、人気サービスだ。「インターネット×ブライダル」を軸とした新しいサービスを次々と展開し、今や結婚準備中のカップルにとってなくてはならない企業に成長している。



著しい事業成長の裏側には、全国8拠点の営業活動を下支えるメディア開発本部の存在が不可欠だ。

同社の東京表参道の本社に伺い、まず目を奪われたのが、会議室への入室認証システムだった。それは、社員がSuicaをかざして入室するという方法だ。FeliCa対応しているSuicaの情報をサーバに登録することで社員個人のSuicaが一瞬にして会社のセキュリティカード化するというわけだ。

メディア開発本部は、このような認証システムをはじめとする社内システムの設計や導入・運用、スマートデバイスやPC端末・ネットワーク機器の管理、さらには商品サイトの設計やインフラ構築に至るまで、システム関連業務を一手に担っている。

そんなプライダル業界の先進的企業の根幹を支える「メディア開発本部」西脇様、綿引様のお二人に同社のスマートデバイスの活用状況やMDM製品「LanScope An」の採用理由についてお話を伺った。

## iPhoneの業務活用

### 社有携帯をフィーチャーフォンからiPhoneへ「サイボウズoffice」で社員の業務を効率化

今から4年前の2012年に社有携帯をフィーチャーフォンからiPhoneに切り替えたウエディングパーク。最新のスマートデバイスを活用して営業活動の活性化を図ろうとしたのが狙いだ。

「現在、営業社員にはiPhoneとiPad (Wi-Fiモデル) を配布しています。iPhoneで電話やGmailの確認を、お客様への商品サイトや資料のご紹介はiPadでと用途を分けて使っています。さらに、弊社



○株式会社ウエディングパーク メディア開発本部 シニアエンジニア 西脇様

の営業は出張が多いので、電池消費を考慮してテザリング機能を使わなくてもインターネットに接続できるようにポケットWi-Fiも使っています。」

そう語るの、メディア開発本部シニアエンジニア 西脇氏だ。

同社は、効率的に営業活動できるようにグループウェアの「サイボウズoffice」など、スマートデバイス上で情報確認や報告、申請など必要業務を完結できるように業務アプリを積極的に導入している。

## 導入の決め手

### 資産管理ができるMDMはLanScope Anだけでした。会社の“資産”を把握することが、スマートデバイス管理で最も重要なこと。

西脇氏がMDM製品の検討を始めたのは、2014年。当時の状況についてこう振り返る。

「以前からExcelで台帳管理は行っていました。ですが、次々に増えていく社員数とデバイスの数に台帳の更新が追いつかなくなっていました。弊社は、この業務を専任で!というスタイルではないので、どの部門も何かしら業務を兼務している状況です。このメディア開発部自体も商品サイトの設計や構築、インフラ回りの管理など様々なミッションがあるので、正直このままでは社有端末の管理が煩雑になってしまうのではないかと感じていました」(西脇氏)

そしてAndroid・iOSの管理ツールとして同社が導入したのがMDM (Mobile Device Management) 製品「LanScope An」。その採用理由は、実にシンプルだ。

「MDM 5製品のトライアルを利用し、ひと通り機能や操作感を検

機種	OS	名前	OSタイプ	No.	端末名	OSバージョン
Android	社員	江藤 花子	Android	14	SC-03D_0000000014	4.4.2
Android	社員	六角 龍夫	Android	59	hammerhead_0000000059	6.0
iOS	人事課	森 育三	iOS	28	iPhone_0000000028	8.0
Android	人事課	江村 太郎	Android	20	htc_0000000020	2.3.3
Android	営業部	橋本 英一郎	Android	19	GP2_0000000019	3.2.1
Android	営業1課	内田 健太	Android	16	L-22D_0000000016	4.0.1
Android	営業1課	中田 真由美	Android	23	404KC_0000000023	4.4.2
Android	営業1課	橋 隆雄	Android	13	picaso_aapcut6jp_0000000013	3.2.1
Android	営業1課	石井 健二	Android	17	P855D10_0000000017	4.4.2
iOS	営業1課	別所 悠希	iOS	29	iPhone_0000000029	8.0
Windows	営業1課	吉田 勝平	Windows	44	Surface Pro 2_0000000044	Windows 8.1 Pro 6.3.9600
Windows	営業1課	池田 宗也	Windows	45	Windows_0000000045	6.3.9600
iOS	営業部	船田 太郎	iOS	18	iPhone_0000000018	8.0
Android	営業2課	平塚 善作	Android	15	404KC_0000000015	4.4.2
Android	営業2課	佐藤 理恵子	Android	7	404KC_0000000007	4.4.2
iOS	営業2課	佐藤 剛	iOS	30	iPhone_0000000030	8.1
iOS	営業2課	鈴木 一	iOS	31	iPhone_0000000031	8.1
iOS	営業2課	佐竹 悠弘	iOS	32	iPhone_0000000032	8.4.1
iOS	営業2課	石川 彰	iOS	33	iPhone_0000000033	8.3
Windows	営業課	田村 彰	Windows	54	Surface 3_0000000054	Windows 8.1 6.3.9600
iOS	営業2課	小林 裕司	iOS	34	iPhone_0000000034	7.0.3
Windows	営業2課	尾崎 太郎	Windows	51	Surface 3_0000000051	Windows 10 Home 10.0.10240

○資産情報一覧画面 (画面はサンプル)

証しました。リモートロックやワイプができないMDM製品はなかったですが、資産管理ができるMDMはLanScope Anだけでした。」(西脇氏)

営業用のiPhoneとiPad (Wi-Fiモデル)、OSバージョン毎に保有しているiOS/Androidの検証用の端末のどれもが、会社の重要な「資産」であると西脇氏は話す。会社の「資産」だからこそ、誰が使っているのかというユーザーとの紐付け、そしてその「資産」がどのような状態なのかを可視化し、把握できる状態にすることが同社の考える「資産管理」だ。資産管理ができていなければ、紛失や盗難などの有事の際に迅速に対処できない。だからこそMDM製品には、資産管理機能が最も重要であると西脇氏は話す。

「もちろん他の製品もiPhoneの電話番号やIMEIなど端末のハードウェア情報を収集する機能はありました。しかし、LanScope Anはその情報を一覧で表示させることができ、名前の編集も簡単でした。まさに以前にしていたExcelの台帳管理が自動化した形です。管理画面にログインすれば、全台の情報を簡単に確認できるLanScope Anの資産管理機能は、管理者としては非常に心強い機能で魅力的でした。」(西脇氏)

## 活用・導入効果①

### 回線付き、Wi-Fiモデル、検証端末を一元管理デバイスとユーザーを紐付ける「資産棚卸し」を実施

同社はLanScope Anの展開時に全デバイスの資産棚卸しを実施した。Excelの資産台帳を最新の情報に更新できていなかったため、LanScope Anのインストールを機に「会社には何台のスマートデバイスが存在するのか」「現在、誰がどの端末を使っているのか」を再確認したと言う。

「既に社員に配布しているiPhoneやiPad、さらに検証端末にLanScope AnをインストールするにあたりGoogle Apps上で社内用のサイトを作成しました。」

そう語るの、西脇氏と一緒にスマートデバイス管理を担当する綿引氏だ。

「LanScope Anのインストールに必要なURL情報を管理画面からエクスポートし、Google Appsのサイトにインストールマニュアルとあわせて掲載しました。1週間以内に各自インストールするように全社に案内したことで、短期間でLanScope Anの展開を完了させることができました。」(綿引氏)



○株式会社ウエディングパーク メディア開発本部 綿引様



○LanScope Anの管理画面から端末の状況を確認 (画面はサンプル)

## 活用・導入効果②

### 東京、大阪、名古屋、福岡など全国8拠点のデバイスを2人で管理社内規程とMDMを組み合わせ、セキュリティを担保

月1回、LanScope Anの管理画面にログインし、東京、大阪、名古屋、福岡など全国8拠点に散らばる全デバイスの状況確認を行っている。

同社ではパスワードポリシーを次のように設定している。文字数4文字、有効期間1年、前回設定の利用不可。このポリシーに違反しているアラート端末があるかどうか「警告端末一覧画面」から確認。さらに30日以上未稼働な端末がないかどうかも同様にチェックしていると言う。その他、アプリの利用に関するポリシーは適用していない。